

PAWEES の現況と方向性 Present and future of PAWEES

○松野 裕*

Yutaka MATSUNO*

1. 背景

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: 通称 PAWEES)は、日本の農業農村工学会が中核となり韓国農業工学会(KSAE)および台湾農業工学会(TAES)と国際機関などが連携して2003年に設立されたアジア発の水田稲作農業を中心とした水環境分野における科学・技術振興を目的とした国際学会である。また、PAWEESが母体となって発刊する国際誌 Paddy and Water Environment (PWE)は、第3回世界水フォーラムの開催(2003年3月)に合わせてシュプリンガー社から創刊号が発刊された。以後、PWE誌は年4回継続的に発行されてきたが、2009年にインパクトファクターの付くジャーナルとしてSCIE(ISIデータベース)に収録された。PAWEES事務局は、2011年より農業農村工学会内に事務局が固定されている。

国際誌の刊行以外で、PAWEESが担う主要な機能に国際研究集会の開催がある。また、国際研究集会と併せて、PAWEES国際賞、PWE論文賞、PWEレビュアー賞の授与式が開催されている。国際研究集会は、毎年1回コアメンバーである韓国農業工学会、台湾農業工学会、ならびに農業農村工学会が持ち回りで主催者となっているが、近年は農業農村工学会が主催する年はコアメンバー国以外で開催するように務めている。そこで、2009年にインドネシア・ボゴール大学で開催したのを手始めに、2012年はタイ国で開催した。また、2015年はマレーシアで開催する計画がある。より詳細なPAWEESの活動については <http://pawees.net/>を参照願う。

2. 最近の動向

2012年の研究集会は、PAWEES事務局の要請をタイ国の王室灌漑局(Royal Irrigation Department)、チュラロンコン大学(Chulalongkorn University)工学部、カセサート大学(Kasertsart University)工学部が受け入れ、地元主催者と開催された。そのなかで、当該研究集会はカセサート大学工学部の創立100周年行事の一つとして位置付けられ

*PAWEES 事務局長: Secretary General of PAWEES, 近畿大学農学部: School of Agriculture, Kinki University
キーワード: PAWEES, 水田・水環境工学

た。会場は王室灌漑局の研修施設を使用し、研究集会のメインテーマは、「モンスーンアジアにおける水と環境管理のチャレンジ」とした。参加国は主催国タイをはじめ、日本、韓国、台湾、インドネシア、ミャンマーなど多数の国におよび、参加者総数は約260名であった。日本からはPAWEES名誉会長の佐藤洋平氏を団長として30名以上が参加した。研究集会2日目に開催されたPAWEES総会では、「PWE誌出版」、「PAWEESの運営」、「加盟国間の国際協力」、「PAWEESとICIDの協力」について討議された。そのなかで、特にPWE出版業務およびPAWEES管理業務の現況と課題、ならびに今後のPAWEESを通じた国際連携活動の強化策などについて協議された。研究集会を通じて、地元タイ国はもとよりアジアの水田・水環境における科学技術・学術の情報交換を行うなかで、この分野を国際的により発展させることの重要性を参加者が再認識することとなったであろう。

今年のPAWEES研究集会は、メインテーマを「農業の水と地域環境の将来」とし10月30日から11月1日の期間に韓国で開催される（詳細は上記のPAWEESホームページ参照）。サブテーマは次の5つとなっている：気候変動と水資源、持続的土と水の管理、地域計画と環境、農業養分管理と環境、社会と経済に関わる農業の水の多面的機能。今年の研究集会も、例年通りに日本からの多数の参加を期待している。

3. 今後の展開

以上に述べたように、PAWEES活動の場は着実に広がってきている。PAWEES・PWE誌に対する認知度が近年上昇していることは確実である。これには、PWE誌のSCIE収録が大きな原動力となっていることは容易に想像付くが、関係各位の尽力の賜物でもあり、今がPAWEESにとっても更なる発展の契機と考える。今年の2013年はPAWEES創立・PWE誌発刊10周年となるが、今までの10年は協力機関・組織との連携を強固なものとし体制を確立してきた時期とすれば、今後はさらなる飛躍を期待できる時期となるであろう。

一方、アジア地域、さらにはグローバル規模でPAWEESの活動の場を広げて行く中で、活動に不可欠な財政的基盤を確立することには常に困難が付きまとっている。PWEにおいても、投稿論文数が飛躍的に増加している状況でその管理体制の強化や掲載論文数の増加を考えた場合の財政的な負担増にどう対処して行くかの積極的な議論が必要であろう。他方、昨年の購読料収入のロイヤルティとして初めてSpringerからの支払いが今年ある。購読者の増加は財政状況の改善に直結することであり、今後もPWEの積極的な宣伝および知名度向上に務める必要があるだろう。